

有識者の意見概要（平成 28 年度第 4 回総合教育会議（2/16））

I 田中 南砺市長

- ① 平成 24 年に井波高校が閉校し、その跡地に富山国際大学のサテライトができたことは良かったが、住民の皆さんからは、地域で高校が担っていた地域力がなくなったと聞き、高校と自治体の関係の深さを改めて実感した。
- ② 中学生が行きたい高校を選ぶときは、学力のレベルや家からの距離、高校の特色などの観点から選択できるという状況が望ましい。特に女子生徒にとっては、学校までの距離は大きな要因となる。
- ③ 3 学級の基準がわかりにくい。報告書では 3 学級以下の高校を再編対象とするとしているが、小規模校の良さをしっかりと検証してもらいたい。
- ④ 3 学級以下となっている学校は、標準的な学力レベルの学校だと思う。それだけを再編していくと、大規模な進学校だけが残っていくようなアンバランスになるのではないか。
- ⑤ 効率性とか財政的な面だけにとらわれた議論になりがちになるが、富山県に生まれて良かったという高校教育のあり方を議論していただきたい。我々も、その実現に協力させていただく。

II 笹原 朝日町長

- ① 「1 市町 1 高校」を保持してもらいたい。地域の活性化が図られるような配慮が必要であり、泊高校の存続は、朝日町の活性化、発展の根幹となる重要課題であると同時に、死活問題である。
- ② 少人数であっても、生徒同士が切磋琢磨する状況は当然あり、選択教科は、開設数によって教育の質が問われるものではないことから、全ての小規模校を統合することには疑問が残る。
- ③ 大規模校と小規模校の双方を「地方創生」を念頭に置いてバランスよく残し、多様な高校の中から、中学生自身が、自分の興味・関心、特質に応じて高校を選択できるよう整備、配置することが大切である。
- ④ 各地域の中学生に、地元の高校で学び、地元で根付く機会を提供することも大切である。
- ⑤ 自治体と県が知恵を出し合って、高校の存続、そして魅力ある高校づくりにもう少し膝をつき合わせながら検討すべきである。

III 朝日 朝日印刷会長

- ① 前期高校再編では、同じ学年の人数が多いことで、学習面や部活動、人間関係において切磋琢磨する機会が増え、また生徒が増え、学校自体にも活気が出て良かった。
- ② また、工業高校では多くの学科が併設され、ものづくり学など学科横断的な教科が導入され、自分の学ぶ学科以外の分野の理解が進むとともに、統合により、実習棟や設備が整備され、新技術への対応が可能になった。
- ③ 普通科と職業科の割合をそのままにして再編を行うと、専門学科の学級減となる恐れがある。特に、工業高校のあり方については、ものづくり立県、富山県として、長期的な計画によって慎重に議論していただきたい。
- ④ 工業系の高校から、地元の工学部のある大学に進学するような仕組みを検討できないか。そういう学生は、地元で就職する率が高い。
- ⑤ ものづくりの現場には、普通科や商業科の生徒も入社することから、これらの生徒も在学中に、ものづくりの現場を体験できるようにしてもらいたい。

IV 田中 田中精密工業相談役

- ① 課外活動は生徒の将来の人間形成、社会生活において大きな役割を果たしている。部活動では、多くの部員が切磋琢磨して、より高い目標を目指していくことが大事であり、そのために一定の学校規模が必要である。
- ② 高校の教育環境を整え、県内企業の担い手やリーダーを育成するためには、一定の規模が必要であり、今後の生徒減少を踏まえると、高校再編はやむを得ない。
- ③ 職業科高校は、県内企業の担い手を育成するという大きな役割を担っており、ものづくり県である本県では、4 地区に、ものづくりを支える工業科単独校が必要である。
- ④ 県内の市町村では小中学校を統廃合しており、教育環境を整える必要性を考えると、高校だけ例外とするわけにはいかないのではないかと。
- ⑤ 1 つの市町に 1 校配置するより、高校時代にいろいろと経験を積ませることが、自分たちの子ども、地域の子どもたちにとって大事である。

V 森 富山市長

- ① 公立の小中学校、県立の高校を出て、一定水準の進学実績を出していることが富山の教育の魅力である。高校教育の水準は、雇用にも人口にも大きく影響する。
- ② 小学校、中学校とは違い、県立高校は生徒の土着性がなく、1自治体1高校にこだわる必要はない。
- ③ 切磋琢磨が生まれ、いろいろな考え方をする生徒が在籍することが、多様な価値観を知るために大変大事で、1学年5学級が良いと思う。
- ④ 職業科で実学を学んだ生徒で、一般の大学に進学する人もいるのではないかと思うが、この人たちが富山の現場を支える働き手として働いてくれるような教育をしていかないといけない。
- ⑤ 工業系は何学級必要かや、ニーズが大きい学科をどこに作れば、全県的に人を集めようとするのができるのかなどの視点で再編を考えていくということが大事である。